

〔訂正〕 2月9日付けで資料提供した次の資料について、次のとおり修正がありました。
(3月13日修正) 修正箇所：9ページ目 受賞者名読み仮名

広島県教育委員会 NEWS RELEASE
広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の実現

報道提供資料
令和6年2月9日
課名 秘書広報室
担当者 教育広報係長 西村 博之
内線 4934
直通電話 082-513-4934

令和5年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の 受賞者の決定及び表彰式の開催について

令和5年度広島県教育賞及び広島県教育奨励賞の受賞者を、令和5年12月21日の教育委員会会議で決定しました。

表彰式を令和6年3月12日(火)16時から、県庁本館6階講堂で行いますので、是非、取材にお越しく下さい。

1 表彰の趣旨

学校教育、社会教育、体育・スポーツ、地域文化、教育行政のそれぞれの分野において、教育賞は功績が特に顕著なもの、教育奨励賞は成果等が他の模範として推奨できるものを県教育委員会が表彰し、県教育の振興・発展に資する。

2 受賞者(別紙のとおり)

広島県教育賞 個人 7名、 団体 2団体
広島県教育奨励賞 個人 14名、 団体 9団体

3 表彰式

日時：令和6年3月12日(火) 16時～
場所：県庁本館6階・講堂

(参考)

区分	創設年度	延べ受賞者数(今回表彰分を除く。)
広島県教育賞	昭和44年度	個人500名、団体52団体
広島県教育奨励賞	昭和59年度	個人640名、団体236団体

令和5年度広島県教育賞受賞者

○個人

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	そら もと ひで かず 空 本 秀 寿	東広島市立寺西小学校 校長 (東広島市)	<p>「夢と志をもち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成」を目指し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にとらえた授業づくりを進めている。</p> <p>平成29年度に、広島県小学校体育研究大会東広島大会の開催校の校長として、当該校の研究の成果を県内外に発信した。その取組が認められ、当該校は、文部科学大臣表彰（学校保健表彰）、翌年度には、全国学校体育研究優良校を受賞した。</p> <p>令和4年度に東広島市小学校長会会長を務め、東広島市教育振興基本計画の下、卓越したリーダーシップを発揮し、適切な指導・助言を行い、市内小学校長の資質向上に貢献した。また、令和5年度に広島県連合小学校長会会長を務め、豊富な見識と実践を生かし、県全体の小学校教育の充実と発展に寄与した。</p>
	しん かわ え み 新 川 恵 美	広島市立中広中学校 校長 (広島市)	<p>教育課程と生徒指導の両軸を柱に、組織的な授業改善を図ることで、生徒の学力向上と生徒指導の課題解決に尽力した。</p> <p>特に中広中学校において、「授業づくりが学校づくり」をスローガンに掲げ、「誰一人とり残すことのない授業づくり」を目指し、生徒が教材とつながり、仲間とつながり、自分の言葉で表現する授業づくりを進めている。</p> <p>また、生徒会活動の推進にも力を入れ、「全国いじめ問題子供サミット」に関する取組においては、生徒会自らがCMを作成し、いじめについて自発的に考える場を作るなど、生徒の主体性に焦点を当てた取組の推進を図っている。</p>
	おく はら よし ひさ 奥 原 義 尚	広島県立安古市高等学校 校長 (広島市)	<p>五日市高等学校では、「学びの変革推進部」を立ち上げ、「主体的・対話的で深い学び」を促す授業づくりに尽力した。また、マレーシアの姉妹校などとの国際交流、地域連携、防災教育の取組など多様な活動による人材育成に取り組んだ。</p> <p>呉宮原高等学校では、呉市をフィールドとした「屋根のない学び舎」プロジェクトによる探究活動やキャリア教育の充実を通じて、生徒の進路実現と社会に貢献する人材育成に尽力した。また、コロナ禍においても生徒の学びを止めないためのICT活用や学校行事の工夫に先進的に取り組んだ。</p> <p>安古市高等学校では、校内組織体制の改編を行い、課題発見・解決学習やSTEAM教育、デジタル・シティズンシップ教育などの研究指定事業の取組を推進した。また、探究とキャリア教育を一体化させる「総合的な探究の時間」の新しいカリキュラム開発やその実践に取り組んだ。</p>

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	なか はら けん じ 中 原 健 次	広島県立 福山誠之館高等学校 校長 (福山市)	<p>文部科学省の委託事業「地域に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構想事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）」において、配信校の校長として強いリーダーシップを発揮し、中山間地域の学校に対する授業配信や、探究的な学びの実現につながる教育内容の創造に取り組み、本県の遠隔教育の推進に尽力した。</p> <p>高いリーダーシップを発揮し、組織的な学校経営と人材育成を図るとともに、教職員一人一人の把握に努め、安定した学校経営を行っている。</p> <p>また、総合的な探究の時間等で生徒が主体的に活動する機会を積極的に設け、学校を活性化させている。</p> <p>その他、5年間にわたり校長協会の様々な役割（副会長、支部長、副支部長）を積極的に務め、広島県の教育の発展に尽力している。</p>
	きし もと ちか こ 岸 本 千香子	福山市立想青学園 校長 (福山市)	<p>ふるさとの魅力を知り、ふるさとの未来を考える新教科「SOSEI学」では、企業等と連携し、地域の食材を生かしたオリジナル弁当づくりや郷土の偉人「山本瀧之助」の記念式典を地域の方々と企画提案するなど、地域の歴史・文化、産業等を素材にした探究学習を行っている。</p> <p>また、コミュニティ・スクールを導入し、保護者や地域と学校運営のビジョンを共有して「かかわるつながる」をテーマに教育活動の充実を図っている。</p> <p>さらには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教科や学年の枠を超えたカリキュラムを編成し、学習内容や方法を子どもたちが考え、決めて進めるなど、学ぶ喜びを感じることが出来る授業づくりに取り組んでいる。</p>
社 会 教 育	にし だ ひろ のぶ 西 田 弘 展	ボーイスカウト 広島県連盟理事 (廿日市市)	<p>昭和63年から県内のボーイスカウト活動に参画し、ボーイスカウト活動の活性化に尽力している。</p> <p>ボーイスカウト広島県連盟においては、教育内容の責任者である県コミッショナー等を務め、県内のボーイスカウト活動を牽引している。</p> <p>また、各県連盟や地方ブロックが開催する研修所において指導を担う所員や運営責任者である開設担当者を務めたほか、指導者の上級教育を行う実修所所長を務め、多くの指導者の育成に寄与した。</p> <p>さらには、日本連盟アダルトリソース特別委員会委員長を務めた際には、委員会を取りまとめ、日本国内におけるボーイスカウト活動の方針等の策定に携わった。</p>

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
社 会 教 育	弓 場 美 代 <small>ゆみ ぼ みに よ</small>	広島県地域女性団体 連絡協議会会長 (東広島市)	<p>広島県地域女性団体連絡協議会会長として、卓越したリーダーシップで会を牽引し、男女共同参画、青少年の健全育成、交通安全及び環境・健康づくりの推進等、地域に密着した諸問題に積極的に取り組む会の発展に貢献している。</p> <p>市の社会福祉協議会理事や青少年育成市民会議理事を務めるなど、会の目的である「男女共同参画による活力と個性ゆたかな地域社会の創造」の視点を持って、関係機関との連携を進めてきた。</p> <p>また、頻発する大規模災害に備えるため、女性会事業として「防災学習会」を主導し、女性の声を生かした地域の防災活動の推進に寄与している。</p>

令和5年度広島県教育賞受賞者

○団体

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
社 会 教 育	<small>こうち おも とだいがく</small> 河内万年青大学 (東広島市)	<p>高齢者が自立的な社会生活を続け、世代間の隔たりを狭め、生きがいに溢れた生活が続けられることを目的に、昭和48年4月に創設され、例年、100名以上の入学者を受け入れている。</p> <p>受講者兼役員である地域住民自身が学修会の企画及び運営を行い、「高齢者の交通事故防止」、「認知症にならないためにすぐできること」等の高齢者に向けたテーマを中心とした講演会や、落語、神楽等の芸術鑑賞会、転倒予防体操、グランドゴルフ等の健康づくり運動及び地域の小学生との世代間交流等、幅広いテーマ・ジャンルの学修会を毎月継続的に実施している。</p>
地 域 文 化	<small>やまのみんぞくしりょうほぞんかい</small> 山野民俗資料保存会 (福山市)	<p>山野民俗資料保存会は町民が主体となり発足し、山野の民俗資料の収集を始めた。この活動の中から「山野民俗資料収蔵庫」が誕生した。</p> <p>また、山野民俗資料は福山市重要文化財に指定された。</p> <p>令和4年に福山城築城400年の市民企画事業として福山藩初代藩主水野勝成が放浪時代に滞在していた山野町周辺の歴史文化資源をとりまとめた「備後備中における水野勝成一時安山野・成羽一」と題した散策マップを作成し、多くの人の関心が高まるようウォーキングなどで活用している。</p>

個人7名 2団体
(並びは区分(校種)別、氏名等(五十音順))

令和5年度広島県教育奨励賞受賞者

○個人

区分	氏名	所属及び職名 (所在地)	功績等
学校 教育	たなか りょうこ 田中涼子	三原市立三原小学校 教諭 (三原市)	<p>令和3年度から県教育委員会の「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、探究的な学習研究推進リーダーとして、三原市立第二中学校区（小学校4校、中学校1校）全体で、生活科・総合的な学習の時間においてプロジェクト型学習充実の取組を推進している。</p> <p>三原市立第二中学校区の学校に出向き、地域の題材を生かしたプロジェクト型学習の単元構想等の方法について研究主任に助言等を行い、各校の教育活動を活性化させた。</p> <p>所属校の生活科・総合的な学習の時間において、地域の題材を扱った学習単元を仕組むことを通して、全校児童の郷土愛を育む教育活動を展開した。</p> <p>児童の資質・能力の伸長を細やかに見取るために、児童の実態に応じた2段階のルーブリックを作成し、児童の変容や成長を評価する体制を整えた。</p> <p>校内の授業改善の方策として、児童が「予想と現実のずれ、未知の事実等への出会い」を設定、児童の興味・関心をより深める場面を設けた。</p>
	なかしま あきな 中島愛菜	呉市立安登小学校 教諭 (呉市)	<p>令和3年度に広島県立教育センター長期研修、令和4年度に教職員支援機構「外国語教育指導者養成研修」を受講し、外国語活動の指導について専門性を高めるとともに、「逆向き設計論」を取り入れた単元づくりに向け、「逆向き設計シート」の開発を進めた。</p> <p>外国語活動の指導で培った「逆向き設計論」を他教科へ汎用し、研究主任及び小中一貫教育推進コーディネーターとして、校内外の研修会等で発表し、「逆向き設計シート」を活用した授業づくりを普及させ、教職員の授業力向上に尽力している。</p> <p>令和4年度「呉市立小学校教育研究会外国語活動・外国語部会」において、これまでに研修で学んだことや実践してきたことを発表し、市内小学校教職員の授業力向上に寄与した。</p> <p>令和4年度「第17回小中一貫教育全国サミット in 飯塚」学力向上分科会において、主体的・対話的に深く学ぶための基盤づくりや「逆向き設計」を取り入れた単元づくり、学び合いのある授業づくり等を中学校区で小中一貫して取り組むことが学力の向上につながると発表し、普及に努めた。</p>

区分	氏名	所属及び職名 (所在地)	功績等
	はし 橋 もと よし 嘉 文	福山市立千田小学校 教諭 (福山市)	<p>川口小学校では、「学力向上チャレンジ校事業」「学力向上推進地域事業」の連携担当教員として、「自分の考えを持ち、豊かに表現する児童を育成する授業の創造」をテーマに研究を進めた。</p> <p>国語科では、言語活動を工夫し、読むことと書くことを関連づけた学びを通して、表現する力を高める授業づくりに取り組んだ。積極的に取組を進め、学力向上に成果を上げるとともに、他校へ発信することで、本市国語科教育の推進に寄与した。</p> <p>千田小学校では、令和3年度に教科担任制の導入を提案し、教材研究の深まりなどの成果や時間割調整についての課題を整理し、次年度から本格的に実施するための準備を進めた。</p> <p>今年度は、個人の業績評価の目標の1つである「マイチャレンジ」を学年会等で交流する体制を整えた。目標に対する自らの実践を子どもの姿をもとに日常的・協働的に振り返り、見直し・修正を行いながら取組を進めることで、「失敗を恐れずに挑戦することができている」教職員が増えている。</p>
学校 教育	ほそ 細 かわ 川 きょう 京 こ 子	三次市立神杉小学校 教諭 (三次市)	<p>平成20年度福山市立高島小学校に採用されて以来、教育に対する使命感と情熱をもって子どもたちの教育に携わってきた。柔軟な思考と組織的な取組により、多くの教育課題を解決しており、児童や保護者、同僚からの信頼も厚い。また、青年海外協力隊に2年間参加し、現地の学校で英語を使用しながら授業した経験があり、外国語教育を推進するために必要な専門的知識や実践力を有している。</p> <p>令和3年度からは「小学校英語専科指導」担当教員として、中学校区の3校の小学校を兼務しながら、児童にコミュニケーション能力の素地を養う教育活動に取り組んでいる。</p> <p>これらの取組により、令和5年度広島県児童生徒学習意欲等調査では、自分の考えや気持ちを英語で表現できる児童が増加するなど、英語力向上に大きく貢献している。</p> <p>また、県小学校外国語活動推進研修や三次市教育研究会外国語科部会において、授業提案や資料提供を行う等、授業改善に取り組み、本県の小学校外国語教育の推進に寄与している。</p>
	まい 舞 ゆき 幸 え 江	坂町立坂小学校 教諭 (坂町)	<p>令和2年度幼児教育長期派遣研修で園所での保育の体験を生かして、坂町内の小中学校における、「主体的な学びを促すスタートカリキュラムの再開発」の実現に尽力をつくした。</p> <p>坂みみょう保育園の保育理念である「感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子に」を踏まえた保育から小学校への接続を研究し、普及を図った。</p> <p>広島県立教育センター研修に係る実践報告や、坂町幼保小中連携協議会における授業実践提案を行い、広島県内全域に幼保小連携・接続の普及を図った。</p>

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	むら しみ けん いち 村 上 健 一	尾道市立長江小学校 教諭 (尾道市)	<p>平成30年度から3年間、県教育委員会「学力向上フォローアップ校」の推進教員として、対象児童の実態やつまずきの要因分析に基づく手立てを取り入れた授業改善を実施し、児童の学力の定着を図った。研究成果は、「学力向上のための実践交流会」で報告したり、公開研究会等を通して授業公開したりする等、積極的に情報を発信し、県内市内の学校への普及を図った。</p> <p>令和3年度から3年間、県教育委員会の「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」を長江中学校ブロックで指定を受け、3校の研究推進リーダーとして、3校合同研修会を計画的に実施する等、探究的な学習の創造に向けて、取組の充実・発展に寄与している。</p> <p>令和3年度探究的な学習の在り方に関する実践報告シンポジウムでの実践報告をはじめ、令和4年度、令和5年度県教育委員会主催研修会等において実践発表を行う等、研究成果を県内市内の学校に広く還元・普及を図っている。</p>
	い とう なお や 伊 藤 直 也	福山市立誠之中学校 教諭 (福山市)	<p>幸千中学校では、生徒指導主事として、全ての教員が粘り強く生徒と向き合い、心に寄り添った指導を行うことができるように、生徒理解について校内研修を行うなど、生徒指導體制の確立を図った。</p> <p>誠之中学校では、登校しづらい生徒が自分のペースで学ぶことができる「きらりルーム」の担任として、生徒、保護者との面談等を通して、一人一人の状況と、その状況に至っている要因をアセスメントし、個に応じた支援を行っている。また、スクールカウンセラー等と連携し、不登校生徒支援、教育相談に関する研修を実施し、教職員の指導力の向上を図っている。</p> <p>広島県「不登校SSR推進校」として取組をさらに進め、所属校の大きな課題であった長期欠席者数が昨年度から減少しており、取組の成果を市内外へ発信した。</p>
	ぬま た れい こ 沼 田 令 子	北広島町立大朝中学校 教諭 (北広島町)	<p>令和3年度から3年間、カリキュラム開発事業の指定を受けた大朝中学校区において、研究推進の中核を担う研究推進リーダーとして、同中学校区である大朝小学校及び新庄小学校のキャリア教育の充実発展に尽力した。</p> <p>また、県教育委員会主催の研修では、「組織的な推進体制づくりと「資質・能力」の共有について」というテーマで実践発表を行い、大朝中学校区のこれまでの研究の成果の普及に大きく貢献した。</p> <p>大朝中学校区では、小中連携による研究組織として5つの部会（資質・能力部会、出前授業部会、独自の取組部会、職場体験部会、面接体験部会）を設置し、全教職員を各部会に位置付け、役割の明確化を図るとともに、部会代表者による担当者会を定期的に行い、各部会の連絡調整を行ったり、地域人材や関連事業所等との交渉を行ったりするなど、研究組織の要として活躍した。</p>

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
	ほし の よう こ 星 野 陽 子	廿日市市立四季が丘中学校 教諭 (廿日市市)	<p>当該校は、令和3年度から、県教育委員会による不登校SSR（スペシャルサポートルーム）推進校の指定を受け、当該教諭は、SSR担当教員として、組織の中心となり、不登校等生徒への個別に応じた支援を行い、生徒が安心して過ごすことができる居場所づくりを推進した。</p> <p>令和3年度、廿日市市の生徒指導主事研修会で、SSRの趣旨と実践について発表し、不登校等児童生徒への支援方法や効果を高めるための校内連携の在り方など、市内小中学校の職員へその普及を図った。</p> <p>令和5年度、県教育委員会主催の「学びの变革」推進のための実践等交流会では、SSR推進校の担当者として登壇し、自校の取組を発表し、今後の不登校児童生徒への支援の在り方について、県内の参加者に多くの示唆を与えた。</p>
学 校 教 育	いし い あさ こ 石 井 朝 子	広島県立西条農業高等学校 教諭 (東広島市)	<p>平成30年10月から令和3年4月までの間、臨時的任用職員として広島県立西条農業高等学校畜産科の指導に携わっており、令和元年には「ご当地！絶品うまいもん甲子園（全国食の甲子園協会主催）」に出場して準優勝に導くとともに、「SDGs サンド賀茂？！」の開発指導を行った。</p> <p>また、令和2年には、西条農業高等学校ブランド豚「アグリポーク」の開発指導や、「全国高校生農業アクション大賞 第4回認定」の研究指導に携わった。</p> <p>令和3年以降は、畜産に関するプロジェクト学習を推進し、飼育管理を工夫したり、地域の企業と連携して飼料の調製を行ったりすることを通じて、家畜の品質向上を図っている。</p> <p>また、付加価値を高める商品化に関する指導も行い、同校で加工したロースハムは、肉質のみならず、SDGsの観点からも高い評価を得ている。</p>
	とよ た じゅん こ 豊 田 順 子	広島県立海田高等学校 教諭 (海田町)	<p>家庭科（特に食物調理）の専門性を生かし、公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会家庭科技術検定本部委員として、全国の家庭科教育の推進に大きく貢献した。</p> <p>家政科生徒の指導に尽力し、第15回ひろしま・ライスクッキングコンテスト（平成29年）や第5回豆乳レシピ甲子園郷土料理部門（平成30年）において、最優秀賞に導くなど、優れた実績を挙げた。</p> <p>海田高等学校に赴任以来、「ふれあい交流会」「海高レストラン」の指導を続け、家政科生徒の調理技術等の向上に大きく貢献している。</p> <p>また、生徒の課題研究を指導し、安芸商工会、海田町郷土料理研究グループ「さつまの会」、(株)ますやみそとの協同により、「海田さつまの素（ごま鯛みそ）」を商品化するなど、生徒の課題解決能力及び調理技術の向上等を図ることに加え、郷土料理の継承、普及に努め、広く地域に貢献している。</p>

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	まーふい マーフィー ぱとりっく	広島県立尾道東高等学校 講師 (尾道市)	<p>国際教養コースの担任、英語科主任等を務めるとともに、実践的英語運用能力の育成に向けた授業実践の中心的役割を担い、尾道東高等学校の英語教育を牽引している。特に、学校設定科目である「ディベートディスカッション」の授業づくりに積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、「総合的な探究の時間」においてもディベート活動を取り入れ、生徒の論理的思考力の向上につなげている。</p> <p>ESS・英語ディベート部の顧問として指導力を発揮し、英語ディベート大会においては、平成28、令和3、4年度の全国大会出場に、英語スピーチコンテストでは、令和4年度に（第1部）全国大会出場に功績を残している。</p>
	あん どう ま き 安 藤 真 喜	広島県立 福山北特別支援学校 教諭 (福山市)	<p>採用時から現在に至るまで知的障害を対象とした特別支援学校で勤務しており、知的障害や自閉症をはじめとする発達障害のある児童生徒の実態把握や障害特性に応じた指導に深い造詣がある。</p> <p>平成30年度からは、特別支援教育コーディネーターとして、センター的機能の発揮に努めている。主に福山市、府中市及び神石高原町の保育所、幼稚園、小学校及び中学校等に助言等を行っており、これまで域内の教職員に対して、のべ766回の支援、159回の研修を実施している。</p> <p>特に、幼児児童生徒の実態に応じた指導・支援及び環境整備に関して具体的な助言を行うなど、地域の特別支援教育の推進・充実に大きく貢献しており、この貢献は報道にも取り上げられている。</p> <p>このほか、府中市及び神石高原町教育委員会主催の研修会において研修講師を務めたり、県教育委員会主催の研修会において実践報告を行ったりするなど、後進の育成にも精力的に取り組んでいる。</p>
	ほつ た めぐみ 堀 田 恵 ほった た めぐみ 堀 田 恵	広島県立黒瀬特別支援学校 教諭 (東広島市)	<p>特別支援学校における地域連携・地域協働の在り方について、顕著な実績を上げ、学校教育目標「挨拶・挑戦・地域参加」を大きく推進した。</p> <p>高等部作業学習食品加工班を担当し、地元の企業が生産している無農薬バナナと黒瀬特別支援学校の食品加工の技能を統合して「ばななマフィン」を製品化するとともに、令和5年度、「東広島ふれあい夏祭り」において、地域販売を成功させるなど、生徒を大きく成長・発達させた。</p> <p>訪問学級を担当し、地域参加の新たな方法として、分身ロボットOriHimeを活用し、自宅に居ながら学校の授業に参加できるようにした。また、保護者や地域の方を招いた校内カフェでは、生徒が自宅から遠隔操作して、接客できるように指導をした。多様な学びや社会参加が求められる中、訪問教育の在り方や重度重複障害のある生徒の自立と社会参加の在り方に変革をもたらした。</p>

令和5年度広島県教育奨励賞受賞者

○団体

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	安芸高田市立美土里小学校 校長 熊野 尚子 (安芸高田市)	<p>平成18年度から児童の体力向上の取組を推進し、平成26年度からは全校で児童のラジオ体操による体力向上と健康増進に努めてきた。校長のリーダーシップのもと、ラジオ体操担当教員を軸として全教職員で組織的に取組を進め、その実践が長きにわたって引き継がれている。</p> <p>平成26年度から参加している全国小学校ラジオ体操コンクールでは、技術部門において第1回から9年連続で受賞し、第9回では最高賞である金賞を受賞した。今年度は、長年にわたるラジオ体操への実践が評価され、メイプル賞の受賞に加え、ラジオ体操優良団体等表彰広島県表彰を受賞した。</p> <p>令和3年度からは県教育委員会の「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定校として、児童自身や集団の考えを発展させる「学び合い」による探究的な学習の充実を目指して取組を推進している。</p> <p>また、総合的な学習の時間では、第3学年から一人一探究を実施し、児童一人一人が個別に設定した課題の解決に取り組む学習の開発・実践を行っている。</p> <p>これらの実践について広く研究公開を行い、県内の小中学校における探究的な学習の充実に寄与している。</p>
	尾道市立栗原北小学校 校長 神原 雅彦 (尾道市)	<p>関わりの力をもち、自分を表現することができる児童の育成に向けて、「クラス会議」や「ファミリー活動（異学年交流）」を中心に、人とつながり、「関わる力」「自分を表現する力」を高めている。学級の課題や仲間の悩みなどの解決に向けて、学級で話し合う「クラス会議」を通して、児童が課題解決の方法を学び、主体的な活動を創造している。</p> <p>また、第1学年から第6学年を縦割りの班に分け、異なる学年を家族と見立てた「ファミリー活動（異学年交流）」として、掃除、遠足などを行っている。第6学年がリーダーシップを発揮しながら、グループをまとめるとともに、他学年は、フォロワーシップの気持ちをもって活動することで、思いやりや優しさが生まれるとともに、自己肯定感や自尊心等を醸成している。</p> <p>これらの実践とその成果について広く研究公開を行っており、県内の小中学校における話し合い活動の充実に寄与している。</p>
	海田町立海田東小学校 校長 齊藤 知法 (海田町)	<p>令和3、4年度に文部科学省の「教育課程実践検証協力校事業（算数科）」の指定を受け、「データの活用」の効果的な指導方法の研究を推進した。「データの活用」におけるICTの活用等の効果的な指導については、当該校HP等での発信に加え、研究公開を実施し、研究成果の県内への普及を図っている。</p> <p>令和5年度も、引き続き児童の生活の中から見いだした課題をデータの活用により解決する取組を通して、データ活用の有効性を実感させるとともに、データを用いる際の見方や考え方を育成している。</p> <p>また、県教育委員会の「小学校教科担任制推進事業」、「生徒指導サポート実践校」の指定での実践を踏まえ、組織的な取組の推進による安定した学習指導等を充実させ、児童の学力や自己指導力の向上を図る取組を継続している。</p> <p>さらには、これらの実践と成果を町内の小学校に紹介し、町内での普及につなげている。</p>

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	大竹市立大竹中学校 校長 <small>そがめ たくま</small> 十亀 琢磨 (大竹市)	<p>個別の学習支援を行うリフレッシュ・ルームと、協力して学習したり楽しく遊んだりすることを通して社会的自立を支援するスペシャル・サポート・ルーム（SSR）を併用することによって、不登校生徒への働きかけや学習支援を行い、登校意欲を高めている。</p> <p>また、不登校傾向が見られる生徒の出席率を算出し、出席率が増減した理由を分析することで小さな変化を見取るとともに、対象生徒に焦点化した働きかけを行っている。</p> <p>その結果、不登校傾向が見られた生徒の出席率が上昇し、個々の生徒の状況や興味関心に応じた学びの場を提供することにつながった。さらに、第3学年の生徒全員の進路実現にもつなげている。</p> <p>なお、リフレッシュ・ルームとSSRの活用にあたっては、全教職員が運営に携わることができるよう体制を整えることにより、6時間目までリフレッシュ・ルームを利用する生徒が増え、別室を利用する生徒と教員との人間関係づくりに寄与している。毎週、校長・教頭を始め、関係機関等の担当者が参加する拡大生徒指導対策委員会を開催し、生徒の情報交換を行いながら関係機関との連携を円滑に行えるようにしている。さらに、令和5年度、西部教育事務所管内の生徒指導主事等研修で実践発表することにより、域内に成果を広く普及している。</p>
	三次市立布野中学校 校長 <small>よしなみ のりか</small> 吉浪 徳香 (三次市)	<p>令和3年度から「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、探究的な学習の充実に向けて、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を取り入れルーブリックを活用した単元開発と学習を進めてきた。</p> <p>令和4・5年度も研究主題を継続し、小中9年間を見通した系統的な生活科・総合的な学習の時間の単元を開発し実践した。地域・地元企業と連携して、地域の特産物を使用した商品開発による地域活性化に取り組み、生徒の主体性や社会参画の意識を高めた。</p> <p>他の学年においても研究推進リーダーを中心に、小中合同で授業研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の視点で指導力向上を図った。その結果、探究活動への意欲については、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙のうち「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒の割合は、中学校80.0%（全国平均72.1%）であり、このことから研究の成果が表れている。また、「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の研究の成果を県内外に発信しており、市内の研究リーダー校として、大きく貢献している。</p> <p>キャリア教育の充実、探究的な学習を通じた学校教育目標の実現に向けた取組により生徒の主体性や社会参画の意識を高めるとともに、全ての生徒の進路実現に寄与している。</p>
	広島県立庄原格致高等学校 校長 <small>あげち かつとし</small> 畦知 克利 (庄原市)	<p>令和4年度、STEAM教育モデル校の指定を受け、先進校を視察し、外部連携をより強固にするなど探究成果を社会実装のレベルにもっていくことを意識して取組を進めている。その中で、「未来の教室」実証事業の取組も行っており、主に地域経済の循環をベースにしたデータサイエンス的な手法を取り入れた探究を実践している。</p> <p>科目「情報Ⅰ」の授業に係る県教育委員会による支援事業において、外部講師によるオンライン授業の受信校に立候補し、県教育委員会や外部講師と協力・連携しながらモデルとなる授業づくりに貢献している。また、校内で「デジタル・シティズンシップ教育」の考え方を取り入れたカリキュラムマップを作成し、「情報Ⅰ」及び「公共」を核となる科目と位置付け、教科等横断的な視点からの教育課程の編成・実施に努めるとともに、総合的な探究の時間の取組の一環として、中学生に向けてデジタル・シティズンシップの視点を取り入れた出前授業を実施するなど、先進的な取組を推進している。</p>

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	広島県立庄原実業高等学校 <small>くりた まさひろ</small> 校長 栗田 正弘 (庄原市)	<p>2 学年希望者に対して大学や企業等への派遣実習を実施する「庄実デュアルシステム」に取り組んでおり、専門的な知識と技術の定着と深化、総合化を図り、地域産業の充実・発展に寄与している。</p> <p>3 年間を通して企業や専門家とともに問いに対する最適解を探究する課題発見・解決型学習「未来思考型 PBL 学習プログラム」を実施するなど産学官一体型プログラムにも取り組んでいる。</p> <p>令和 3 年度から文部科学省より指定を受け、学校・産業界・自治体が一体となって地域に貢献する職業人材を育む「マイスター・ハイスクール」事業を実施している。</p> <p>地元企業の方が「産業実務家教員」となり、トラクターやドローン等の最先端の農業機械を用いた実習を実施している。</p>
	広島県立福山誠之館高等学校 <small>なかほら けんじ</small> 校長 中原 健次 (福山市) 広島県立油木高等学校 <small>はらだ とよゆき</small> 校長 原田 豊之 (神石高原町) 広島県立東城高等学校 <small>にしむら ようこ</small> 校長 西村 洋子 (庄原市) 広島県立日彰館高等学校 <small>いまがわ としふみ</small> 校長 今川 俊文 (三次市)	<p>令和 3 年度から文部科学省委託事業である「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業 (CORE ハイスクール・ネットワーク構想)」の指定校として、4 校で遠隔授業の取組を進めており、油木高等学校、東城高等学校、日彰館高等学校の 3 校については、地域協働の取組も進めている。</p> <p>4 校は、令和 3・4 年度において、遠隔授業を試行し、令和 5 年度は 8 科目の授業において、県内初となる遠隔授業による単位認定に向けて取組を進めている。</p> <p>また、令和 3 年度から地域協働の取組の一環として、油木高等学校、東城高等学校、日彰館高等学校の 3 校を中心に総合的な探究の時間等の授業をオンラインで接続し、学校を超えた探究活動を行い、その成果を発表したり、相互に評価したりする場として、合同発表会を実施している。この発表会では、生徒がより多様な意見に触れる機会の創出を目的とし、県内外の高等学校の生徒と交流する場面も設けた。</p> <p>さらに、令和 4・5 年度には県内で遠隔授業に取り組む他の学校に対して公開授業を実施するとともに、令和 5 年度には、広島県立教育センターの専門講座の一つとして、10 月に公開授業を実施し、成果の普及に努めた。</p> <p>令和 6 年 1 月には、「遠隔教育サミット in 広島」において、取組の成果を全国に発信した。</p>
	広島県立呉特別支援学校 江能分級 <small>てしま ゆみこ</small> 校長 手島 由美子 (江田島市)	<p>江田島市をあげて活性化に取り組むオリーブ栽培に、生徒が「島をもっと元気にするために、自分たちにもできることを！」と考え、オリーブ栽培のみならず、オリーブオイルの地域の給食への提供、オリーブの枝を使ったおもちゃの制作、ギリシャ大使館との交流等様々な取組を重ね、島に貢献することにもつながっている。</p> <p>また、児童生徒の主体性、自律性、協働性を育むとともに、校内での学習だけでは実感することが難しかった地域への興味・関心を高める取組、地域の方や国際交流の相手を意識した商品づくり等の取組へと発展させている。</p> <p>コロナ禍にあっても学びを止めることなく、新たな取組としてデジタル機器等を活用して地域と連携する等、取組を一層深化させた。共生社会の実現を目指すに当たって、「地域」を共通のキーワードとして、双方が協働することを通して、児童生徒は「多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力」を身に付け、児童生徒の意欲を地域協働から地域貢献という高いレベルまで引き上げて日々進化させている。</p>

個人 14 名 9 団体
(並びは区分(校種)別、氏名等(五十音順))